

G7で採用デニムバッグ レプリカ版の販売を計画

福山特産のデニムをアピール

広島市で開催された先進7カ国首脳会議（G7サミット）の記念品に、福山市特産のデニムを使ったバッグ「サミットバッグ」が採用された。福山市内の繊維関係8社が共同製作し、今後、関係各社は、レプリカ版を販売する計画だ。

バッグは縦37cm、横33cm、奥行き60mmで、持ち手や上部のブラックデニムはカイハラ(株)（新市町）、下部は伝統的な刺子の刺繍をイメー



サミットバッグを持つ篠原社長

ジした中国紡織(株)（一文字）の生地で作った。中央のポケット部分は備後撚糸(株)（芦田町）製の和紙の糸を坂本デニム(株)（神辺町）が染色した、篠原テキスタイル(株)（駅家町）の現代的な生地を使用した。縫製は大江被服(株)（神辺町）と(株)C2（芦田町）で、デザインは(株)ディスクバーリンクセとうち（新市町）が手掛けた。約3500個製作し、折り鶴の再生紙でできたメモ帳などを入れ、各国代表や報道関係者に配った。外務省から許可を得て、各社が販売を計画するレプリカ版は1万円前後で1000個の限定生産となる見込み。

製作に携わった篠原テキスタイルの篠原由起社長は「サミットでバッグが採用され、デニムの産地福山がアピールできた。レプリカ

版で福山デニムの良さを味わって」と話した。